

第3回 2016年6月15日(水)

第3回の一류塾では、講師に森澤紳勝氏（(株)日本トリム 代表取締役社長）と、大山健太郎氏（アイリスグループ 会長）を、懇親会の特別ゲストには紫舟氏（書家／アーティスト）をお迎えしました。



【講師 森澤氏】

第1部では、『創業から今日まで～良い会社とは～』と題して森澤氏が講義を行いました。冒頭、幼少期から学生時代、サラリーマンを経て起業するまでの森澤氏の生い立ちをご紹介頂きました。その後、起業してから数年間の壮絶な試練や、ビジネスが軌道に乗り始めてからの新たな苦難の数々を、具体的なエピソードを交えてお伝え頂きました。そのうえで、ビジネスを成功に導くには、時代に即して体制を変えながら対応することが重要であるとお話し頂きました。また経営者として大切にしていることとして、「社会正義に則る」、「責任はとるものではなく果たすもの」、「厳しい環境でこそ人も仕事も成長する」、「人生に僥倖はない」などを分かりやすくお伝え頂きました。講義の締めくくりには、「夢は必ず実現する～I hope ではなく I do～」という座右の銘とともに、塾生を激励して頂きました。塾生からは、「責任は取るものではなく果たすものとい

う言葉に感銘を受けた」、「起業してから大変な苦労は、自分の姿と重なり涙が出そうになった」、「創業者としての強固な使命感や事業に対する強い想いを実感させられた」といった声が寄せられました。

第2部では、『変化対応の経営』と題して大山氏が講義を行いました。冒頭、数々の大きな経済変化を乗り越えてチャンスにしてこられたお話とともに、経営者は市場経済の中で視野が狭くなりがちであるという戒めをお話し頂きました。そのうえで、これまでのビジネスの発想では、結局は価格競争に陥ってしまうということや、中長期計画は経営者自身その達成や進捗に捉われて変化に対応できなくなる場合があることをご紹介いただきました。講義の後半では、常に新しい需要を生み出すユーザーインや市場創造について、具体的な事例を交えてお話し頂きました。また、過去の延長には将来は無いことや、会社を良くするには社員と理念や方針を共有できることが重要であるなど、経営者としての考え方もご紹介いただきました。塾生からは、「売れる・利益が出る仕組み作りという観点から自社の経営を見直す良い機会になった」、「常にオンリーワンを創ることで、事業の好サイクルを作り出していることに感銘を受けた」、「ビジネスモデルに関する明確なビジョン・分析力と実行力に長けた経営者だと実感した」といった声があがりました。



【講師 大山氏】

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶ならびに、懇親会からご参加いただいた一流塾特別顧問の福川氏（(一財)地球産業文化研究所顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官）による乾杯の後、特別ゲストの紫舟氏から『伝統を超え、世界と通じる』と題して卓話を頂きました。紫舟氏は、NHKの大河ドラマ「龍馬伝」の題字や、2014年ルーブル美術館 Carrousel Du Louvre でのフランス国民美術協会展からの最高位金賞受賞などで知られる書家／アーティストです。卓話では、日本と西洋での物の見方の違いに気づき、それを書の魅力を海外に伝えるために取り入れたことや、新しいことを発想していくヒントをご披露いただきました。紫舟氏のアートの世界に魅了され、塾生も興味津々で熱心に聞き入っていました。その後も各テーブルでは講師・ゲストと塾生とのオープンな意見交換や議論が続きしました。

懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、内閣官房の幹部にご出席頂きました。日本経済のこれからの課題に関する大所高所からのお話しに、塾生も問題意識を刺激されて熱心に耳を傾け、次々と質問が飛び出すなど熱い議論で盛り上がり、塾長と塾生たちの交流が夜遅くまで続きました。



【特別ゲスト 紫舟氏】



懇親会風景



放談会風景